

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地														
日本理工情報専門学校		昭和52年4月1日		瓶井 修		〒533-0015 大阪市東淀川区大磯 1-1-25 (電話) 06-6329-6553														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地														
学校法人瓶井学園		昭和58年9月26日		瓶井 剛		〒533-0011 大阪市東淀川区大槻2丁目6-6 (電話) 06-6329-6553														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士															
工業	工業専門課程	自動車整備科		平成19年文部科学大臣告示20号																
学科の目的																				
二級自動車整備士の取得が目標であり、その資格を活かせる職業に就くことができる技術者の育成を目的としている																				
認定年月日																				
平成26年 3月 31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技													
2年	昼間	2380	704	272																
単位時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
80人	61人	41人	4人	7人	11人															
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年間4回の定期試験 実習・演習の評価 履修科目の全単位取得														
長期休み	■学年始め: 4月15日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月15日			卒業・進級条件																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡・文書送付・保護者懇談			課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 電力施設見学 ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 自動車整備業			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)														
	■就職指導内容 担任による個別面談による指導					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>24人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル自動車整備</td> <td>②</td> <td>20人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>自動車査定士技能検定(小型)</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	24人	18人	2級ジーゼル自動車整備	②	20人	15人	自動車査定士技能検定(小型)
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																	
2級ガソリン自動車整備士	②	24人	18人																	
2級ジーゼル自動車整備	②	20人	15人																	
自動車査定士技能検定(小型)	③	7人	3人																	
	■卒業者数 32人 ■就職希望者数 31人 ■就職者数 31人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 96.6% ■その他					※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等														
(平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																				
中途退学の現状	■中途退学者 7名 平成28年4月1日時点において、在学者64名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者57名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的理由、病気、家庭の事情 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例) カウンセリング・再入学・転科の実施等 1時間目欠席学生の自宅に電話し登校を促す。成績不振の学生への補習授業の実施 退学希望の学生に対し担任・責任者等3名以上が順に面談し親意を促す			■中退率 10.9%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input type="radio"/> 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: <input checked="" type="radio"/> 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/> 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																			
当該学科のホームページURL	URL: http://www.nrj.ac.jp																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」としては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他通常の収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)「上記のほか」「就職者数(関連分野)」は「学校基本調査」における「関連分野」に「就職」の欄を記載し、また「その他」の欄に「関連分野へのアルバイト者数」を記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 マツダ(株)等の企業においてヒヤリングを行い教育課程編成委員会に諮り、企業のニーズに応える事ができる人材の育成に必要な内容を授業に反映させている。また、企業による実務に必要な知識習得のための演習や現場における体験実習を重視し授業科目に組み入れ易くするため授業時間割を1カ月ごとに組み替えるようにしている			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 専攻分野に関する企業、団体との連携体制のもと、授業科目の開設その他の編成を行うものと位置付けている。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年10月10日現在			
名前	所属	任期	種別
清水 政仁	一般社団法人情報通信エンジニアリング協会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
糸尾 武則	自動車整備振興会高槻・三島地区会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
宮崎 雄次	大阪府電気工事工業組合	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
上田 茂久	公益社団法人 大阪府建築士会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
小西 敏仁	ネットヨタニューリー北大阪株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
宮崎 吉雄	トナミ電工(株)	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
宮崎 一郎	トナミ電工(株)	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
増南 正	(有)スタジオ・マックス	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
石上 芳弘	イシウエヨシヒロ建築設計事務所	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
井端 賢次	テクノメック合資会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
篠原 史規	(有) 車楽工房	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
西口 良一	東洋ビルメンテナンス株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
中野 聡	株式会社ジェイファスト	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年2回開催 (開催日時) 平成28年度 第1回 平成28年4月2日 13:30～14:50 第2回 平成28年11月5日 13:30～14:50 平成29年度 第1回 平成29年4月8日 13:30～14:50 第2回 平成29年10月7日 13:30～14:50			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 各省市の指定学科なので科目の変更は難しいが、授業内容の重複はないのかとの指摘があり各教科担当者において綿密な打ち合わせを実施している。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実務に必要な知識習得のための演習や現場における体験実習をできる限り組み入れ、学生が就業するであろう業界の実務の仕組みや技術レベルを知り、より適性のある職業を学生が選択でき実社会で活躍できることを望んでいる			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 授業科目担当教員と実習担当責任者が実習内容を実施前に打ち合わせを行い決定する。実習期間中は、科目担当教員が学生の学修状況について直接確認する。また、実習終了時には、実習担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、科目担当教員が成績評価・単位認定を行う。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	科目概要	連携企業等	
自動車検査	ワゴンRの点検実習を校内実習室において行う	株式会社スズキ自販近畿	
性能	自動車のカスタマイズ業務の実際を学ぶことが目的であり、ユーノスロードスターの車体・エンジンのカスタマイズ実習を行い、レース場でチューニング度合いを確認しながら走行実習を行う。教育課程編成委員会の意見により、走行場を名阪スポーツランドから舞洲スポーツアイランド・フリースペースに変更した。	有限会社 車楽工房	
自動車検査	マツダ車の点検実習を校内実習室において行う。	大阪マツダ販売株式会社	
ビジネスリテラシー	業務用エンジンの保守サービスの業務を学ぶことが目的であり、点検業務及び点検報告書作成の演習を行う。	株式会社ホンダカーズ三重	
自動車検査	トヨタ車の点検実習を校内実習室において行う。	トヨタカローラ新大阪株式会社	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係																	
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 (一社)大阪府専修学校各種学校連合会の主催する教職員のための指導力向上講座や外部団体・企業・大学等が主催する講習、講演について事務局が全員に周知・奨励を行っている。 希望者がいない場合は担当課長が指名して参加者を決める。 参加費用は全額学校が負担している。</p>																	
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等 マツダ株式会社による新技術の案内を主とした、「SKYACTIV」研修会 平成29年8月1日 大阪スバル株式会社による運転支援システム”アイサイト”講習会 平成29年9月13日</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等 「留学生の在留資格についての研修会」平成29年7月26日 大阪入国管理局による留学生への在留許可申請に関する研修</p>																	
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等 サービス技術大会「Audi Twin CUP 2017 Japan Final」平成30年2月14日 大阪マツダ株式会社による最新サービス技術に関する研修</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等 「発達障害のある学生の指導における留意点」平成29年12月16日 日本メディカル福祉専門学校主催の社会福祉士による学生指導方法の研修</p>																	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																	
<p>(1) 学校関係者評価の基本方針</p> <p>教育活動の成果を検証し、それを公表することにより、学生がより良い学校生活を送り満足な学修ができるような学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図ることが重要である。</p>																	
<p>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人物像の設定、専門分野の特性の明確化 職業教育の特色の明確化 社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想の設定 理念・目標・特色等の学生・保護者への周知 業界ニーズに向けた教育目標・育成人物像の設定 </td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 目的に沿った運営方針の策定 運営方針に沿った事業計画の策定 運営組織・意思決定機能の明確化・機能状況 人事・給与規定の整備 教務・財務等の組織整備等意思決定システムの整備 業界や・地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備 教育活動等に関する情報公開 情報システム化等による業務効率化 </td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定 学科目標に対応した教育到達レベル・学習時間確保の明確化 学科等カリキュラムの編成状況 実践的職業教育の視点に立ったカリキュラム開発・工夫 関連分野の企業・団体等との連携によるカリキュラム作成・見直し 実践的職業教育の体系的な位置づけ 授業評価の実施・評価体制 職業教育に対する外部関係者からの評価体制 成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準の明確化 資格取得等の指導体制、カリキュラムの体系的な位置づけ 人物育成目標達成に向けた教員の確保 業界との連携に優れた教員確保等のマネジメント 先端的知識・技能修得のための研修、指導力向上への取組 職員の能力開発のための研修の実施 </td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 就職率向上への取組 資格取得率向上への取組 退学率低減への取組 卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握 卒業後のキャリア形成の把握と教育活動改善への活用 </td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制への整備 学生相談に関する体制への整備 学生に対する経済的な支援体制への整備 学生の健康管理を担う組織体制 課外活動に対する支援体制の整備 学生の生活環境への支援 保護者との適切な連携 卒業生への支援体制 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育への取組 </td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の整備状況 学内外の実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備 防災に対する整備 </td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動の適正な実施 学生募集活動での教育成果の報知 学納金の妥当性 </td> </tr> </tbody> </table>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人物像の設定、専門分野の特性の明確化 職業教育の特色の明確化 社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想の設定 理念・目標・特色等の学生・保護者への周知 業界ニーズに向けた教育目標・育成人物像の設定 	(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿った運営方針の策定 運営方針に沿った事業計画の策定 運営組織・意思決定機能の明確化・機能状況 人事・給与規定の整備 教務・財務等の組織整備等意思決定システムの整備 業界や・地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備 教育活動等に関する情報公開 情報システム化等による業務効率化 	(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定 学科目標に対応した教育到達レベル・学習時間確保の明確化 学科等カリキュラムの編成状況 実践的職業教育の視点に立ったカリキュラム開発・工夫 関連分野の企業・団体等との連携によるカリキュラム作成・見直し 実践的職業教育の体系的な位置づけ 授業評価の実施・評価体制 職業教育に対する外部関係者からの評価体制 成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準の明確化 資格取得等の指導体制、カリキュラムの体系的な位置づけ 人物育成目標達成に向けた教員の確保 業界との連携に優れた教員確保等のマネジメント 先端的知識・技能修得のための研修、指導力向上への取組 職員の能力開発のための研修の実施 	(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率向上への取組 資格取得率向上への取組 退学率低減への取組 卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握 卒業後のキャリア形成の把握と教育活動改善への活用 	(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制への整備 学生相談に関する体制への整備 学生に対する経済的な支援体制への整備 学生の健康管理を担う組織体制 課外活動に対する支援体制の整備 学生の生活環境への支援 保護者との適切な連携 卒業生への支援体制 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育への取組 	(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の整備状況 学内外の実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備 防災に対する整備 	(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動の適正な実施 学生募集活動での教育成果の報知 学納金の妥当性
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人物像の設定、専門分野の特性の明確化 職業教育の特色の明確化 社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想の設定 理念・目標・特色等の学生・保護者への周知 業界ニーズに向けた教育目標・育成人物像の設定 																
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿った運営方針の策定 運営方針に沿った事業計画の策定 運営組織・意思決定機能の明確化・機能状況 人事・給与規定の整備 教務・財務等の組織整備等意思決定システムの整備 業界や・地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備 教育活動等に関する情報公開 情報システム化等による業務効率化 																
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定 学科目標に対応した教育到達レベル・学習時間確保の明確化 学科等カリキュラムの編成状況 実践的職業教育の視点に立ったカリキュラム開発・工夫 関連分野の企業・団体等との連携によるカリキュラム作成・見直し 実践的職業教育の体系的な位置づけ 授業評価の実施・評価体制 職業教育に対する外部関係者からの評価体制 成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準の明確化 資格取得等の指導体制、カリキュラムの体系的な位置づけ 人物育成目標達成に向けた教員の確保 業界との連携に優れた教員確保等のマネジメント 先端的知識・技能修得のための研修、指導力向上への取組 職員の能力開発のための研修の実施 																
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率向上への取組 資格取得率向上への取組 退学率低減への取組 卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握 卒業後のキャリア形成の把握と教育活動改善への活用 																
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制への整備 学生相談に関する体制への整備 学生に対する経済的な支援体制への整備 学生の健康管理を担う組織体制 課外活動に対する支援体制の整備 学生の生活環境への支援 保護者との適切な連携 卒業生への支援体制 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育への取組 																
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の整備状況 学内外の実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備 防災に対する整備 																
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動の適正な実施 学生募集活動での教育成果の報知 学納金の妥当性 																

(8)財務	・中長期的な財務基盤の安定性 ・予算・収支計画の有効性・妥当性 ・財務の会計監査の適正な実施 ・財務情報公開の体制整備
(9)法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営 ・個人情報保護の対策 ・自己評価の実施と問題点の改善 ・自己評価結果の公開
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源・施設を活用した社会貢献・地域貢献 ・学生ボランティア活動への奨励・支援 ・地域に対する公開講座・教育訓練受託等の実施
(11)国際交流	・留学生の受入れ・派遣についての戦略 ・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等手続きの適正な実施 ・留学生の学修・生活指導等についての体制整備 ・学習成果の国内外での評価への取組

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」について、適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。

ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内」、「募集要項」についてはホームページでも閲覧できるようにした。学校関係者評価委員会においては公開項目の検討を重ねた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月10日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎 吉雄	トナミ電工(株)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	PTA 企業等委
増南 正	(有)スタジオ・マックス	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	卒業生 企業等委
石上 芳弘	インウエヨシヒロ建築設計事務所	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	企業等委 員
蔵敷 重壽		平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	元高等学 校校長
篠原 史規	(有) 車楽工房	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	企業等委 員
西口 良一	東洋ビルメンテナンス株式会社	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	卒業生 企業等委
中野 聡	株式会社ジェイファスト	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	企業等委 員
宮崎 雄次	大阪府電気工事工業組合	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	業界団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・毎年4月下旬)

URL: <http://www.nrj.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報公開を推進し企業に対する説明責任を重視する。開かれた学校を目指し、そのため、教育・組織・運営・人事・財務など学校の諸活動全般に関する情報を社会・企業に対し積極的に提供している。

学校案内・ホームページに掲載している以外の内容が企業より要求された場合にはそれに応じる。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針、収容定員数 ・カリキュラム(科目編成、時間割、授業方法及び内容、年間授業計画) ・取得を目指す資格、合格を目指す検定等
(3)教職員	・教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 ・実習・実技等の取組状況 ・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱(金額、納入時期等)
(8)学校の財務	・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果をふまえた改善方策
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ、派遣状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページにて記載。

URL: <http://www.nrj.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンジン構造	ガソリン・ディーゼルエンジンの基本構造を主体とし、各装置ごとにも構造・機能を学習します。また、二輪自動車特異の構造・機能も学習します。	1	58	2	○			○		○		
○			シャシ整備	自動車「走る、止まる、曲がる」ための各装置及び、安全装置の点検・測定・調整、並びに分解、組立ての要点を学習します。	1	38	1	○			○		○		
○			電装整備	各電装品の作動具合の点検・調整及び、電子化された各部装置の機能、性能を学び、基礎整備作業の要点を学習する。	1	46	1	○			○			○	
○			力学	自動車に関係の深い、熱、力、仕事とエネルギー、圧力と応力について基礎的な原理・法則を学び、ボルト、ナット、ベアリング、ギヤなど多くの機械要素を学習します。	1	34	1	○			○		○		
○			電気工学	電気回路図、オームの法則などの基本となる電気の理論を学習します。	1	34	1	○		△	○			○	
○			電子工学	半導体の基礎を学び電子回路を分かりやすく講義します。	1	20	1	○		△	○			○	
○			材料	自動車には多様な種類の材料が使用されています。それぞれの材料の性質を学習します。	1	14	1	○			○		○		
○			燃料・潤滑剤	自動車に使用されている燃料と潤滑剤の種類、性質、用途などの基礎知識を学習します。	1	16	1	○			○		○		
○			製図	JISの機械製図を中心に、一部電気製図について学び、自動車整備士として必要な製図についての一般知識を学習します。	1	14	1	△		○	○			○	
○			エンジン整備	ガソリン・ディーゼルエンジンの分解・組立て及び、点検・修正の要点を学習します。	1	34	1	○			○		○		
○			シャシ整備	自動車「走る、止まる、曲がる」ための各装置及び、安全装置の点検・測定・調整、並びに分解、組立ての要点を学習します。	1	38	1	○			○		○		
○			電装整備	各電装品の作動具合の点検・調整及び、電子化された各部装置の機能、性能を学び、基礎整備作業の要点を学習する。	1	46	1	○			○			○	

(工業専門課程自動車整備科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			整備作業機器	分解・組立て、部品交換などの基本作業に用いられる主な工具、機器類の用途、種類と構造及び、使用法について学習する。	1	12	1	○			○	○			
○			測定機器	主として長さ、振れ、曲がり、すき間などの計測する測定器について学習する。	1	12	1	○			○	○			
○			検査機器	自動車の検査に使用する各種機器の用途、構造及び使用法について学習する。	1	10	1	○			○	○			
○			手仕上げ工作	バイス、ヤスリ、弓のこを使用して、工作作業を行う。	1	12	1	△			○	○			
○			機械工作	バイス、卓上ボール盤、タップ、ダイスを使用して、機械工作を行う。	1	12	1	△			○	○			
○			基本計測	測定機器を使用して、長さ、すき間、振れ、曲がりなどを測定器の取扱に十分注意し、正確に計測を行う。	1	48	1	△			○	○			
○			エンジン基礎 ガソリン	エンジンのオーバーホールをすることにより、レシプロエンジン本体の構造・機能を徹底的に学びます。	1	##	4	△			○	○			
○			エンジン基礎 ディーゼル	小型ディーゼルエンジン燃焼室の確認、インジェクションポンプ構成部品の確認、インジェクションノズルの噴霧状態、噴射開始圧力の点検、調整方法を学習します。	1	40	1	△			○	○			
○			シャシ基礎	動力伝達装置（クラッチ、トランスミッション、プロペラシャフト、ドライブシャフト、ディファレンシャル）の分解、点検、組立ての要点を実施しながら学習します。	1	##	4	△			○	○			
○			二輪自動車 基礎	エンジンの点検、調整、クラッチの状態の良否判定・点検・調整、ブレーキの点検・調整方法等のの要点を学習します。	1	48	1	△			○	○			
○			電装基礎	バッテリーの取扱い、スタータ、オルタネータの作動、点検要領及び、点火装置の点検、調整方法の要点を学習します。	1	##	5	△			○	○			○
○			ビジネス リテラシー	挨拶、電話応対等の一般常識を学びます。	1	68	2		○	△	○				

(工業専門課程自動車整備科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			情報リテラシー	コンピュータの基本を学習します。	1	68	2		○	△	○		○			
○			エンジン構造	ガソリン・エンジンの燃焼方式及び、バルブタイミングを学びエンジンの燃焼過程、排気ガスの発生過程と、その浄化対策について学習します。	2	42	2	○		△	○		○			
○			シャシ構造	オートマティック・トランスミッション、デフアレンシャル、エア・サスペンション、ステアリング装置等の構造・機能を学習します。	2	38	1	○		△	○		○			
○			電装構造	自動車及び二輪自動車の半導体特性、バッテリー、スタータ、オルタネータ、点火装置の、目的と構造・機能・性能を学びます。	2	30	1	○		△	○		○			
○			性能	転がり抵抗、空気抵抗、こう配抵抗、駆動力及び走行性能を学び、走行性能曲線図が理解できるよう学習します。	2	30	1		△	○	○	○	○		○	
○			力学・数学	熱膨張、トルク、加速度、エネルギーについて学習します。又、ベルト・チェーン伝導、リンク機構、カム機構、てこ、について学習します。	2	46	1	○			○			○		
○			エンジン整備	オイル・クリアランスの点検方法、シリンダ、ピストンの測定方法、バルブ機構の点検方法等点検・修正方法を学びます。	2	16	1	○		△	○		○			
○			シャシ整備	パワー・ステアリングの操舵力、作動の点検方法、ホイール・バランス調整、ホイール・アライメント調整、ブレーキのオーバーホールの要点を学習します。	2	18	1	○		△	○		○			
○			電装整備	バッテリーの充放電、スタータ、オルタネータの分解点検、性能試験及び、各センサの信号の測定方法と、アクチュエータの駆動と、各制御の確認方法の要点を学習します。	2	34	1	○			○			○		
○			故障原因探求	故障の種類や原因を、理解し、故障診断の基本的な流れを学ぶ。又、故障探究の方法について学び、それらの故障の主な原因について理解する。	2	34	1	○	△	△	○		○			
○			ビジネスリテラシー	社会人として必要な接客マナーやディーラー業務の演習を行います。	2	68	2	△	○	△	○		○		○	
○			情報リテラシー	部品管理・修理点検票等のコンピューター処理実習を行う。また、自動車整備士以外の職業について情報を得る。	2	68	2	△	○	△	○		○		○	

(工業専門課程自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車検査	点検の目的、種類、点検作業の流れ及び、検査用機器の目的、構造、機能、取り扱い要領と、安全作業の要点について学習する。	2	26	1	○			○		○		
○			自動車整備に関する法規	「道路運送車両法」、「道路運送車両の保安基準」、「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」等を学び、練習問題を取り入れながら学習します。	2	26	1	○			○		○		
○			エンジン応用ガソリン	レシプロ・エンジン本体のオイル・クリアランスの点検、シリンダ内径及びピストン外径の測定、ラッシュ・アジャスタの点検、燃圧等それぞれのエンジンの特長を学習します。	2	##	3	△			○	○		○	
○			エンジン応用ジーゼル	列型インジェクション・ポンプ、分配型インジェクション・ポンプの分解・組み立て及び、インジェクション・ポンプ・テストを使用し、調整方法の要点を学習する。	2	40	1	△			○	○		○	
○			シャシ応用	油圧式パワーステアリングの点検、4輪アライメント・テストを使用してホイールアライメントの点検・調整、油圧式ブレーキの点検方法の要点を学習します。	2	##	3	△			○	○		○	
○			二輪自動車応用	エンジン、トランスミッション、クラッチの分解、キャブレタの分解、点検、調整、アクセル及びサスペンションの分解、点検等の実習。	2	48	1	△			○	○	○	○	○
○			電装応用	電子制御装置（圧力信号、吸入空気量信号、スロットル開度信号、アクセル・ペダル開度信号）の測定や車載電装部品の製作実習。	2	##	5	△			○		○	○	○
○			故障原因探求	始動不良、アイドル不調、CO、HC濃度が高い、電子制御式オートマチック・トランスミッションの不具合等、日常起こりえる故障を想定し、原因の探求と処置の方法を学ぶ。	2	72	2	△			○	○		○	
○			自動車検査作業	検査用機器を使用して、サイド・スリップ、ブレーキの制動力、ヘッドライト光度及び振れ、音量、スピード・メータの指示誤差及び指針の振れを、測定実習します。	2	56	2	△			○	○		○	
合計				45科目	2380単位時間(71単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修2380時間を履修し、全単位修得を卒業要件とする	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。